

【自主】自ら進んで学ぶ生徒【寛容】明朗で思いやりのある生徒【挑戦】健康でたくましい生徒
～夢の実現～〈重点目標〉互いに励まし合い、目標に向かってチャレンジする生徒

原町三中だより



平成28年6月3日(金)第3号

発行責任者：校長 熊澤 正人

TEL 22-3802

「才能」ってなんだろう？ 大事なのは「自分で考える力」

5月31日(火)全校集会講話から抜粋

進路指導のコーナーの記事から

1年生にとっては初めての中間テストが終了しました。生徒の皆さんはそれぞれ計画を立てて目標を掲げて中間テストに臨んだと思いますが、結果はどうだったのでしょうか。

3年生の教室の廊下に興味深いことが書かれてありました。「同じ内容を教わっても、上達の早い人とそうでない人に別れるのはなぜ？」という記事です。これは「進路たいむ」というコーナーに担当の先生が掲載してくださっていたものです。

上達の早い人と、そうでない人に別れるのはなぜ？・・・一言に「才能」と言ってしまうと、理解したような気になるかもしれませんが、実際はこの「才能」にも根拠や理由があります。「才能」とは具体的になんなのでしょう？

例えば、シュートが得意なAさん、シュートが苦手なBさん。これを「AさんはBさんより才能があるからできる」と言ってしまうと、なんかもう、Bさんはあきらめるしかないような、悲しい気落ちになりますが、ここで止まってはいけません。Bさんがシュートが苦手なのには、理由があるのです。それは手首のスナップの問題だったり、足のジャンプのタイミングの問題だったり、シュートする距離感の問題だったり、精神的な問題だったり、いろいろな可能性が考えられます。もし、Bさんに「自分で考える力」があれば、一つ一つかみ砕いて検討し、「シュートが入るための条件」と「Bさんに足りないこと、あるいは余分なこと」について気づくことができると思

います。この「自分で考える力」こそが「才能」なのでは？と思います。

たしかに、Aさんのように深く考えなくても「はじめてからできてしまう人」もいます。おそらく、ある程度のレベルまではそれでカバーできます。しかし、プロとして、より高いレベルを目指したときには「はじめてからこなす能力」だけでは必ず限界がきます。Aさんはシュートは得意かもしれませんが、必ず別の壁にぶつかる瞬間がきます。そのときこそ「自分で考える力」が必要なのです。

考える力をつけるには

では、考える力はどうやってつけばいいのでしょうか？

- ◆ 問題があってもあきらめないこと。
- ◆ どうしたらいいか、考えること
- ◆ どうして良いかわからなかったら、先生や友達に聞くこと。
- ◆ 教えてもらったことを元に、自分でやってみること。それでもだめなら？繰り返し先生や友達に聞きましょう。
- ◆ やったことや反省を記録に残して次に生かすこと。

これらのことは、やる気になれば誰でもできます。これから中体連の大会や期末テストと自分がチャレンジする機会が続きます。「互いに励まし合い、目標に向かってチャレンジする生徒」であり続けるために「自分で考える力」を身につけていきましょう。

